

同時開催

文化庁メディア芸術祭優秀作品上映  
学生CGコンテスト優秀作品上映

arita  
contemporary  
art garden  
place

有田現代アート  
ガーデンプレイス

2010

観覧無料

2010 2/19 — 23 — 28 — 3/20  
fri tue sun sat

10:00 — 18:00

会場 焱の博記念堂 文化ホール・ホワイエ (2/23-28)  
〒849-4165 佐賀県西松浦郡有田町黒川甲1788  
有田町内サテライト会場 (2/19-3/20)  
有田町内、富右エ門窯ほか  
ARITA-mobile (<http://d.hatena.ne.jp/arita-mobile/>)

問合せ先  
〒844-0001  
佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目5  
有田町泉山情報センター内  
有田現代アートガーデンプレイス2010事務局  
TEL.080-1540-4360  
E-Mail [hara\\_kaikoten@yahoo.co.jp](mailto:hara_kaikoten@yahoo.co.jp)  
<http://acagp2010.pl.bindsite.jp/>

文化庁「地域文化芸術 振興プラン推進事業」  
企画: Arita Media Project, 原榮三郎美術館

主催: 文化庁 佐賀県地域文化芸術振興プラン実行委員会 原榮三郎回顧展, 有田現代アートガーデンプレイス2010実行委員会 共催: 有田町教育委員会

後援: 佐賀県 佐賀県教育委員会 有田町 佐賀県立有田工業高等学校 佐賀大学文化教育学部 有田商工会議所 有田町棚田保全協議会 NPO法人有田町ととこむ 佐賀新聞社 西日本新聞社 朝日新聞社 読売新聞社 NHK佐賀放送局 STSサガテレビ 有田ケーブルネットワーク FM佐賀 NBC佐賀放送局

同時開催

写真で見る昔の有田展

原榮三郎が貴重な記録写真として残した有田の風景や人々と共に  
有田町が保管する過去の有田の写真を展示します。

原榮三郎  
回顧展

EIZABURO HARA,  
A PERSPECTIVE

観覧無料

2010 2/23 — 28  
tue sun

10:00 — 18:00

会場 焱の博記念堂 コンベンションホール  
〒849-4165 佐賀県西松浦郡有田町黒川甲1788

E-Mail [hara\\_kaikoten@yahoo.co.jp](mailto:hara_kaikoten@yahoo.co.jp)  
<http://acagp2010.pl.bindsite.jp/>

シンポジウム

映像表現とメディアアート、  
先駆者が語る表現の今

入場無料  
2010 料定員500名  
2/28  
SUN  
14:00—15:30  
会場 焔の博記念堂 文化ホール

招待作家・シンポジウムパネラー



八谷 和彦 (メディア・アーティスト)  
佐賀県佐賀市出身。作品には《視聴覚交換マシン》などの特殊コミュニケーションツールシリーズ、パーソナルフライトシステム《オープンスカイ》など機能をもった装置が多い。メールソフト《ポストベツト》の開発者でもある。個展は2006年「八谷和彦—OpenSky 2.0」[ICC]、2008年「魔法かもしれない。」日本科学未来館など。1998年「アルス・エレクトロニカ賞」ネット部門 準グランプリ、2002年「The Hugo Boss Prize 2002」ノミネート。「ベツトワークス」代表。



小島 淳二 (映像ディレクター)  
佐賀県武雄市出身。コマーシャル、ミュージックビデオ、ブロードキャストデザインなどジャンルを越えて多くの印象的な映像作品を輩出している。2001年砂原良徳「LOVEBEAT」が、文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品。最新作「THE JAPANESE TRADITION 謝罪」が2007年ベルリン国際映画祭短編映画コンペティション部門に日本からは31年ぶりとなる正式出品を果たした。teevee graphics代表。



真島 理一郎 (CG映像作家)  
佐賀県多久市出身。CGアニメーションによる代表作「スキージャンプ・ペア」シリーズは国内外で数々の賞を受賞し、劇場長編映画に展開。2008年には15人の作家によるオムニバス映画「東京オンリービツク」を企画、監督。東京国際映画祭特別賞受賞、ロッテルダム国際映画祭オフィシャルセレクション選出、シネマ・デジタル・ソウル映画祭Green Chameleon AwardとMovie Collage Awardのダブル受賞をほす。



司会 中谷 日出 (NHK解説委員[芸術・文化・IT担当])  
神奈川県出身。東京芸術大学大学院美術研究科修了後、広告代理店のプランニング・アートディレクターとして活動。1989年にNHKが行った「第1期キャリア採用制度」で入局。1994年にはマサチューセツ工科大学 (MIT) メディアラボに派遣されている。1999年解説委員に就任。解説委員としての活動と並行してNHK番組デジタルスタジオのナビゲーターとして出演。グッドデザイン賞選定委員などアートディレクターとしての活動も行っている。

<http://acagp2010.pl.bindsite.jp/>  
<http://d.hatena.ne.jp/arita-mobile/>  
<http://twitter.com/ACAGP2010>



※掲載の内容は予告なく変更する場合があります。

# 宇宙は人間だけが解明できる。 ARTは人間だけが解明できる。

原 榮三郎

原榮三郎回顧展, 有田現代アートガーデンプレイス2010

## 開催概要

このアートイベントは、

佐賀県有田町出身の画家、写真家である原榮三郎 (故人) の作品群を回顧展として展示するとともに、現代アートをテーマにしたシンポジウムを開催することで、その業績を広く知っていただくものです。

あわせて、地方で活躍するアーティスト達に発表の場を提供し、

有田発リージョナルアートの文化的・教育的交流の場をつくるのが目的です。

また、国内外で活躍する佐賀出身のメディアアーティストを招待作家として招聘し、

作品展示、先端芸術のシンポジウムを行うことで、

若手作家への啓発や陶磁器のみに留まらない有田の芸術活動を全国にアピールします。

関連企画として第12回文化庁メディア芸術祭の優秀作品上映も行います。

近年、地域におけるアートプロジェクトが創発しています。

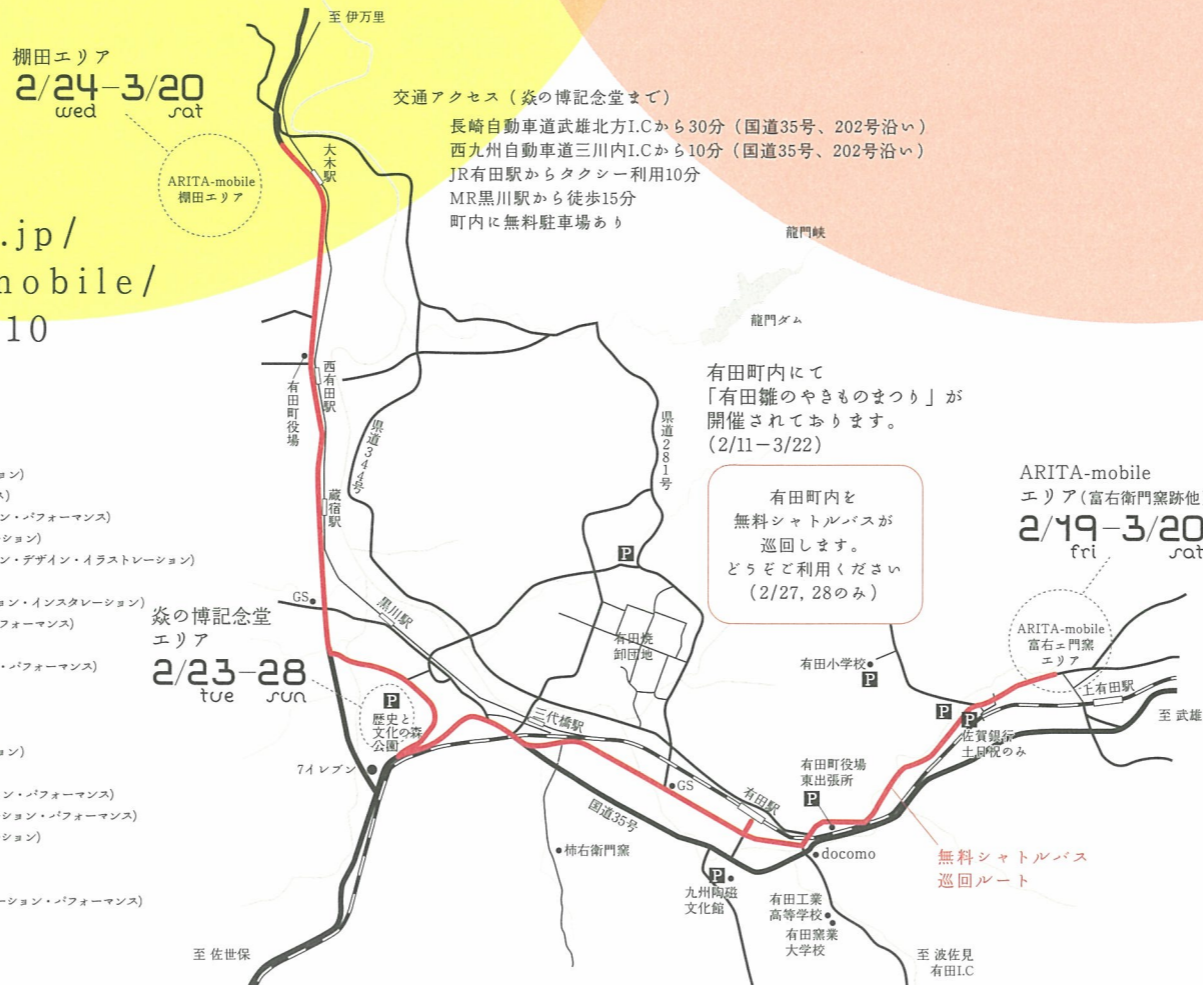
本イベントは全国から「有田」に集結した作家が織り成すアートプロジェクトでもあります。

原榮三郎は戦後現代アートの貴重な写真記録も行っていました。

彼はレンズ越しに時代への深いまなざしを持っていたのです。

20世紀後半の現代アートと21世紀初頭の現代アートが交錯する1ヶ月。

原榮三郎が夢見た宇宙が、いよいよ有田に実現します。



原 榮三郎  
(画家 陶芸家 写真家)  
1935年2月12日佐賀県有田町生まれ。佐賀県立有田工業高等学校図案科卒業後、2年間陶芸家原鐵牛(実父)より美術・陶芸を学ぶ。その後、東京で美術・デッサン・写真と学ぶ。1960年写真家として活動をはじめ。毎日グラフ・プレイボーイ・平凡パンチ・美術誌等に写真発表。1976年日本テレビ(11PM)レギュラー出演(6年間)・各TV局出演にて写真と絵画発表。1980年画家・陶芸家として活動をはじめ。1990年現代用語の基礎知識・表紙画(5年間)・国際花と緑の博覧会政府苑招待作品。海外・国内で絵画制作。1999年佐賀有田ふるさと大使任命。2000年原榮三郎美術館創立(佐賀県有田町自宅で国の重要伝統的建造物群保存指定地区佐賀藩主跡)。東京と有田を通いながら、有田でのアートを用的な街づくりに奔走する。2004年9月14日没。

シンポジウム

## 現代アートの伝統、 世紀を跨ぐコンテンポラリー 原 榮三郎が夢見た宇宙

入場無料

2010 料定員500名  
2/27  
sat  
14:00—15:30

会場 焔の博記念堂 文化ホール



同時開催  
写真で見る昔の有田展  
原榮三郎が貴重な記録写真として残した有田の風景や人々と共に有田町が保管する過去の有田の写真を展示します。

## 賛助出品

山本 圭吾 (インスタレーション) 関口 照生 (写真) 井口 環鏡 (平面)  
Arita Media Project (映像)

シンポジウムパネラー

針生 一郎 (美術評論家)

宮城県出身。東北大学文学部国文科卒。東大文学部大学院美学科専攻。在学中に花田清輝、岡本太郎らの「夜の会」に参加。美術や文芸、社会思想まで、幅広い批評をおこない、国際美術展などのプランナーとしても活躍。多摩美大専任教授、和光大教授、のち岡山県立大教授。日本美術評論家連盟会長と歴任。現在、福井県金津「創作の森」館長。著作に「針生一郎評論」など。

山本 圭吾 (現代アート作家)

福井県出身。1968年よりビデオに取り組み、71年より観客参加型のビデオインスタレーションを制作。「通信と芸術の関係」を追求する。75年に第13回サンパウロ・ビエンナーレにサテライト使用を前提としたビデオゲームを出展。77年「ドクメンタ6」(西ドイツ)。87年「ドクメンタ8」で映像部門国際選考委員、89年「紙と電子メディアの出会い展」で「連画シリーズ」を発表。92年「ドクメンタ9」にて「エレクトロニック・カフェ」。93年第45回ヴェネチア。ビエンナーレ「カシノ・コンテナ」に参画。95年第一回光州ビエンナーレなど。連画、ネットワークインスタレーションなどネットワークアートの新分野を開拓。

関口 照生 (写真家)

東京都出身。明治大学卒業。コマーシャルや雑誌・写真集の撮影を中心にフリーカメラマンとして活動。各TV局のコメンテーターとしても番組出演。世界の辺境を訪ねるTV番組の取材をきっかけに、以後ライフワークとして世界各地の取材を続ける。作品集に「火のラティード」竹下景子との共著「ハロープラスワン」「ファミリーへ、ウエルカム」写真集「地球の笑顔」等多数、小笠原ドキュメント映画「E D E N」監督。日本写真家協会(J.P.S.)会員。倉敷芸術科学大学客員教授。

いわお 俊志 (「いわお塾」塾頭)

佐賀県有田町出身。1974年東京大学卒業。1992年より子供からおとなまでの学びの場「いわお塾」を始める。現在「いわお塾」塾頭および「有田をよくする会」代表。

司会 中村隆敏 (Arita Media Project代表 佐賀大学文化教育学部准教授)